

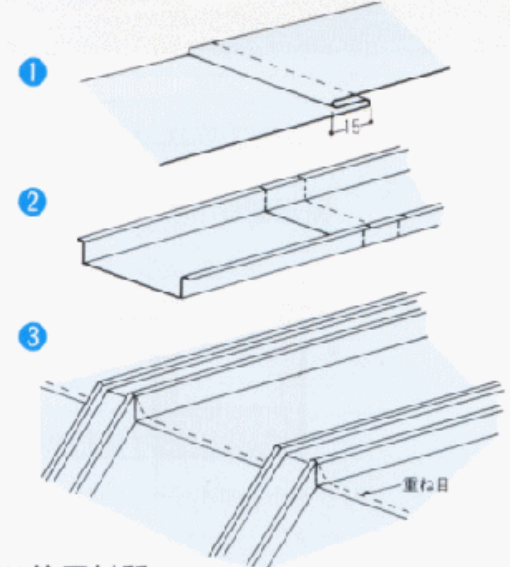
■特長

あらゆる屋根に適用

●溝板と通し吊子又は部分吊子を組み合わせキャップをかぶせてハゼ締結する最もポピュラーな工法です。A号瓦棒は、木骨又は鉄骨の母屋さえあれば、アーチ屋根、ドーム屋根、三角屋根などあらゆる形状の屋根に施工可能です。

鼻折れ加工

●当社独自考案の一枚板による軒先鼻折れ加工が可能です。校舎をはじめ、収舎などの腰折れやマンサード屋根、工場の招き屋根など、ユニークなデザインが可能となりました。また一枚板のため、雨水の侵入やスガ漏れは起きません。



■使用材質

原板名	板厚 mm
垂鉛鉄板	0.35~0.5
着色垂鉛鉄板	
塩ビ鋼板	
アクリル鋼板	
ふっ素樹脂鋼板	
アルミ・垂鉛合金めっき鋼板	0.3 ~ 0.4
カラスステンレス	

■設計参考仕様

原板巾	455mm
働き幅	418mm
勾配	1/100以上
曲率半径	15m以上
母屋間隔	606mm又は910mm

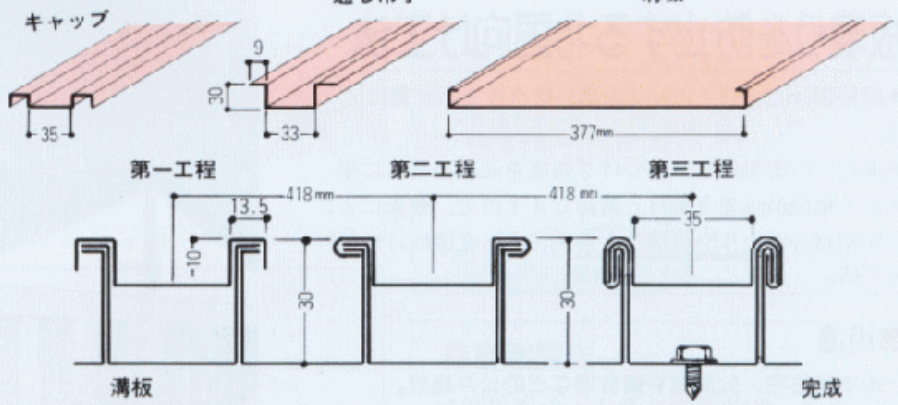
*強風地域では働き幅を縮小(364, 321mm)することも可能です。

湾曲瓦棒

■設計参考仕様

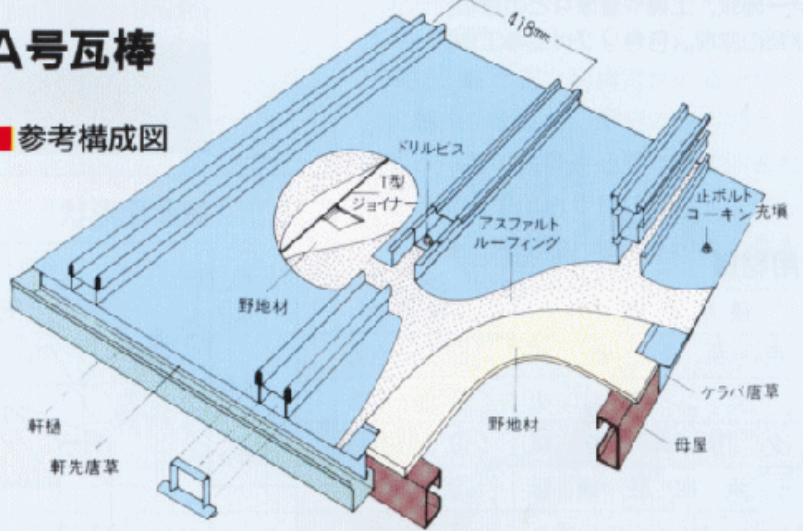
働き幅	418mm
勾配	5/100以上
湾曲半径 R	800mm以上1200mm未満
母屋間隔	300mm ~ 350mm

■断面形状

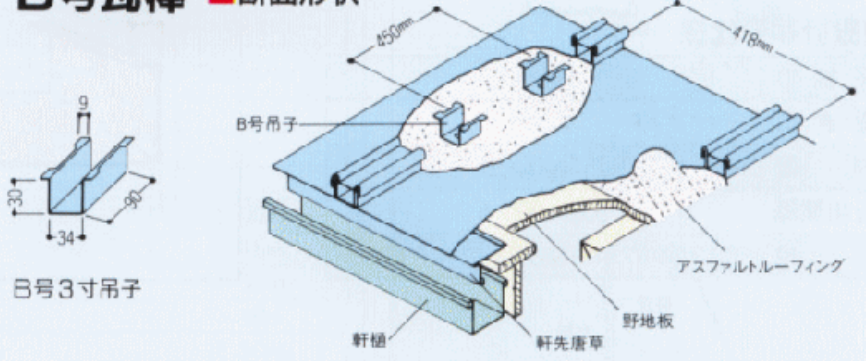


A号瓦棒

■参考構成図



B号瓦棒 ■断面形状



【注意】

1. B号瓦棒はA号同様コンクリート陸屋根にも施工できますが、軒先廻りや妻側などは強風時にそなえてタル木止めは完璧にして下さい。
2. 下地は、堅野地にしますと野棒が不要となります。
3. 下地に木毛板を使用する場合、厚さは25mm以上が適当です。
4. 種を使用せず、母屋と堅野地の場合、二つ割材の母屋を600mm間隔に配置して下さい。

■母屋の許容間隔 (鋼板製屋根構法標準による)

荷重 Wkg/m ²	-120	-180	-240	-300	-350	-420	-450	-480	-510								
瓦棒の間隔 mm	418	418	418	418	321	321	321	321	321								
母屋許容間隔 mm	t=0.35 の場合	910	830	910	830	730	850	760	660	800	700	-	750	-	-	-	-
	t=0.4 の場合	910	850	910	860	750	830	780	690	830	730	640	780	690	720	-	-
	t=0.5 の場合	910		910	800	910	830	730	880	770	680	830	730	770	750	740	720